

立川一門は、18世紀頃から諏訪に居を置き、各地の社寺の建築や彫刻を手懸けた。初代富棟は、江戸において、幕府御用達建築彫刻師 立川小兵衛富房の元で修業し、明和5(1768)年、諏訪に帰り仕事をはじめた。安永9(1780)年、諏訪大社下社秋宮拝幣殿を手懸け、文化元(1804)年、浅間神社(現、静岡市)の建築工事に息子富昌を始め多数の弟子とともに加わり、嘉永年間(1848~1854)、完了した。

2代目立川和四郎富昌は、天明2(1782)年に富棟の長男として生まれた。富昌は、長男富重(3代目和四郎)、次男富種(専四郎)、長女富の夫常蔵昌敬などの弟子とともに諏訪大社上社本宮拝幣殿、豊川稲荷など多くの社寺を手懸けた。立川一門の山車彫刻は各地にあり、特に半田の多くの山車を飾っている。

立川一門の彫りもん

壇箱



亀崎 西組花王車“太平楽楽人”、立川和四郎富昌



成岩 南組南車“馬師皇と龍(羅真仙人)”、立川和四郎富昌



亀崎 中切組力神車“海棠に親子鶏、力雄神”、立川和四郎富昌



上半田 南組福神車“七福神”、立川和四郎富昌

